

害虫カメムシの大発生を予測

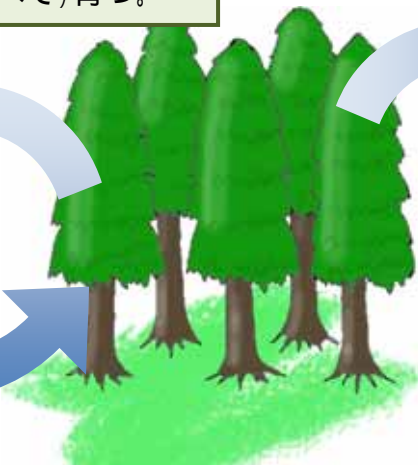
～スギ・ヒノキ種子や果樹の害虫カメムシ類の発生量とヒノキ球果結実量の関係～



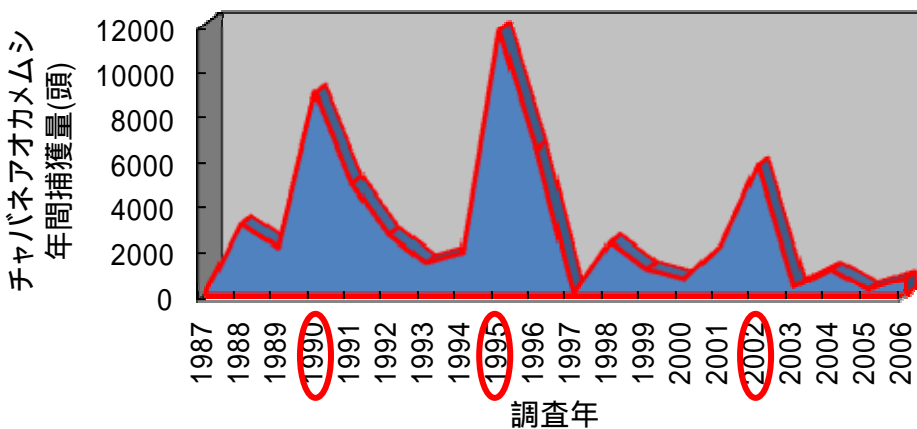
幼虫はヒノキなどの球果を吸汁して(食べて)育つ。



成虫も球果を吸汁するので普段はヒノキ林などで生活のサイクルが完結する。



しばしば、成虫が果樹園に飛来して被害を出す。カメムシ大発生の際はそれが顕著。

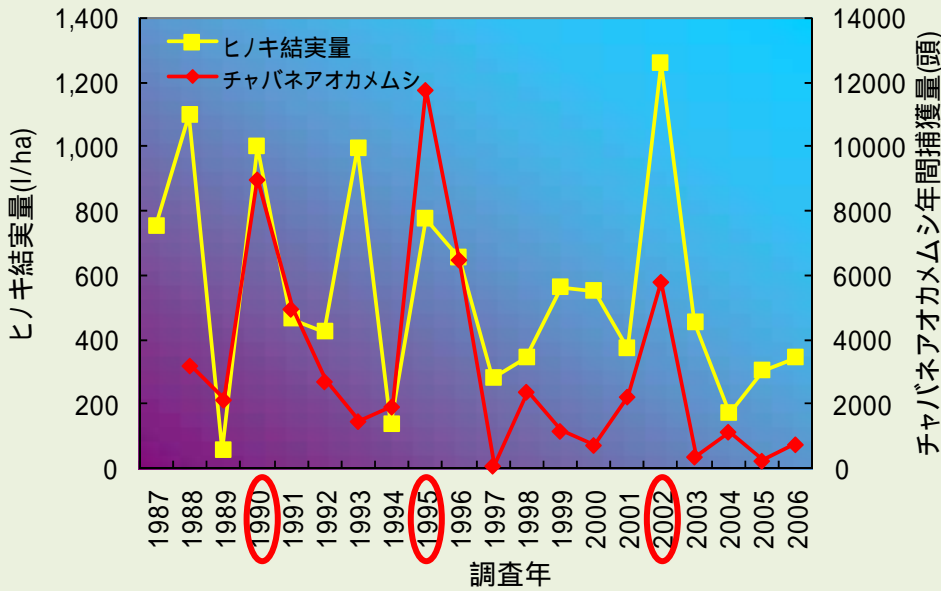


チャバネアオカメムシ

森林・林業研究センターでは、19年間にわたりカメムシ類とヒノキの結実量を調査しました。その結果、両者には密接な関係があることが分かりました。

裏面には、詳しい試験研究結果があります。

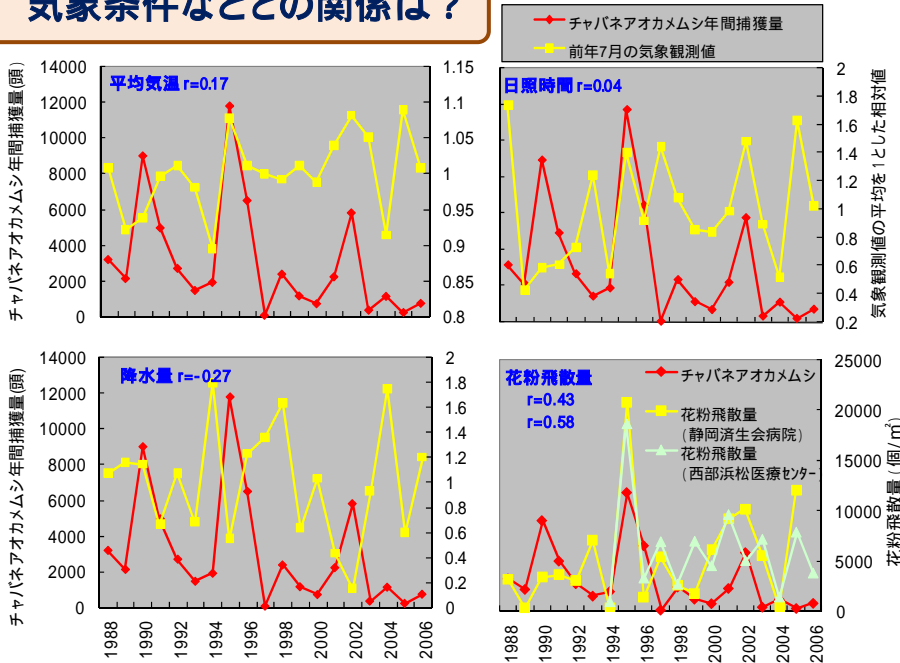




チャバネアオカメムシが大発生する年はヒノキ球果が豊作の年に限られました。また、大発生の数年後にヒノキ球果が豊作になっても、カメムシは大発生しないことが分かりました。

これは、チャバネクロタマゴバチやマルボシヤドリバエ等天敵の多い状態がしばらく続いたためと考えられました。

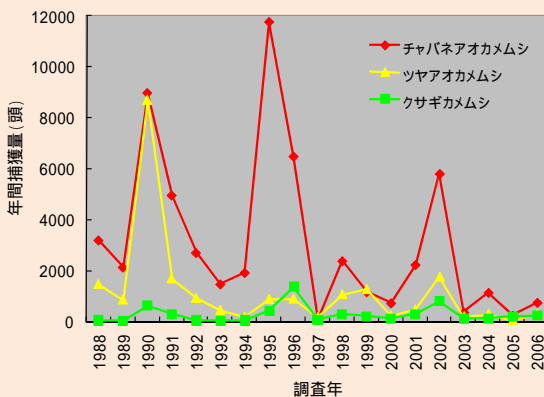
気象条件などとの関係は？



ヒノキの花芽の分化に関する前年の気象とカメムシの発生量との関係を調べましたが明瞭な関係はありませんでした。

その年のスギ・ヒノキの花粉飛散量とは関係があるようでしたが、ヒノキの結実量の方が関係が明らかでした。

他の重要なカメムシは？



チャバネアオカメムシ以外の主要2種もチャバネアオカメムシと同じような発生パターンでした。

- ヒノキ球果の豊作 (5月頃の幼果で判断)
- 数年以内に大発生がない

このような年はカメムシ類の大発生の可能性が高いことが分かりました。

発行日：平成21年3月1日

編集：静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター

発行：静岡県森林・林業研究センター振興協議会

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 (静岡県森林組合連合会内)

TEL (054)253-0195 FAX (054)253-2328